



のう じ でん そう
農 時 電 送

乳牛No. 9

JA新はこだてせたな営農センター・JA今金町

檜山農業改良普及センター檜山北部支所

TEL 84-5514

ミルカー・バルククーラーの洗浄を徹底しましょう

ミルカーやバルククーラーの洗浄不足は、生菌数が増加する原因になります。生菌数が増加した時は、洗浄方法を見直しましょう。

《汚れは見えますか》

菌は汚れの中で急激に増殖し、生乳に混入します。レシーバージャーやバルククーラーの内面に曇りや水滴がある場合、洗浄システムにトラブルが発生しています。洗浄不良となっていないか、定期的を目視で確認しましょう。

《洗浄方法の見直し》

1 洗浄液の温度

工程毎に適正な水温があり、高すぎや低すぎは汚れを残す原因となります（表1）。

表1 洗浄液の温度

工程	水温	注意点
水洗い	38～43℃	熱湯は禁止
洗浄	70～80℃	排水40℃以上
すすぎ	38～43℃	
殺菌	～43℃	熱湯は禁止

※冬期は水温が下がりやすいため、バット内の洗浄液や排水の温度を確認しましょう。

洗浄液の温度が40℃以下になると、汚れが再付着します。排水の温度が40℃以下になる場合、ボイラーの改修やシステムの改善が必要です。

2 洗浄液の量と濃度

洗浄液は、適切な水量があるか確認しましょう。また、洗浄の順序は必ず守りましょう。洗剤の濃度はメーカーの指定値を厳守して下さい。低・高濃度ともにトラブルの原因となります。（表2）。

表2 洗浄の順序と洗剤濃度による害

順序	工程	備考	高濃度の害
1	水洗い	搾乳後 速やかに	ゴム類の劣化
2	アルカリ洗浄 ・すすぎ		
3	酸洗浄 ・すすぎ	アルカリ洗浄後 4日に1回以上	洗剤の無駄
4	殺菌・すすぎ	搾乳直前	効果の低下

※低濃度の害はすべて「効果の低下」

※タイマーだけで洗浄が始まる（水量を感知しない）場合、水圧低下により水量が減少し、洗剤濃度が高くなります。洗浄以外のお湯の使用を控えましょう。

※洗剤自給装置では、ポンプの不具合やチューブの状態を確認しましょう。